

教科	地理歴史	科目	地理総合	履修学年	2年
単位数	2	科・系	全科	担当者	

教科・科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球環境への取組などへの理解</p> <p>(2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする。</p> <p>(3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚を深める。</p>
使用教科書・教材等	<p>わたしたちの地理総合～世界から日本へ～（二宮書店）</p> <p>標準高等地図（帝国書院）</p> <p>わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）</p> <p>独自プリント</p> <p>独自資料（写真・図・グラフ等）</p>
評価の観点とその方法	<p>評価の観点</p> <p>提出物・定期考査等で次の観点で評価する。</p> <p>①知識・技能</p> <p>②思考・判断・表現</p> <p>③主体的に取り組む態度</p> <p>評価の方法</p> <p>提出物（わたしたちの地理総合ワークブック・プリント等）</p> <p>定期考査（年5回）</p> <p>以上を参考に総合的に行う。</p>
学習方法・学習形態	<p>歴史の大きな流れと、その背景を把握できるようにする。</p> <p>歴史の流れや内容を理解し、視聴覚教材や歴史地図・資料（写真・図・グラフ等）・教科書の資料を活用して考察する。</p>
留意点その他	<p>・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>

令和5年度学習進度予定表

期	月	学習項目	学習内容	到達目標
一学期	4月	「地理総合」を学ぶにあたって 第1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界	1 球面上ので世界① 2 球面上の世界② 3 世界地図でとらえた地球	球体としての地球、時差と生活、主な図法による世界地図、地図の表現を理解する。
	5月	2節 国家の領域と領土問題	1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。
	6月	3節 国内や国家間の結びつき	1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する
	7月	4節 日常生活のさまざまな地図 第2章生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化	1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム(GIS)のしくみと使い方 1 地球上の地形のなりたち 2 ,3 山地の平野海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候に対応した生活 6 乾燥した気候に対応した生活 7 季節の違いに対応した生活 8 寒冷な気候に対応した生活	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。
夏季休業				
二学期	8月 9月	2節 産業の発展と生活文化	1 農業の地域性 2 農業と生活文化 3 工業の地域性 4 経済成長による生活の変化 5 経済成長による生活の変化 6 工業化による生活の変化 7 工業化による生活の変化	世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。
	10月	3節 言語・宗教と生活文化	1 世界の言語 世界の宗教 2 仏教 3 仏教 4 キリスト教圏の生活文化 5 イスラム圏の生活文化 6 イスラム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 さまざまな社会の形成と生活文化 9 多文化社会の実現と生活文化	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。
	11月	4節 グローバル化の進展と生活文化	1～3 地域統合による生活文化の変化	EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統

	12月	<p>3章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 人口・食料問題</p> <p>2節 居住・都市問題 代</p> <p>3節 資源・エネルギー問題</p> <p>4節 地球環境問題</p>	<p>4～6 グローバル化による成長と課題</p> <p>1 世界の人口問題 口が増加した国の課題 停滞する国の課題</p> <p>2 世界の食料問題 口増加と食料問題</p> <p>1 世界の居住・都市問題 2 大都市の地域性と課題 3 人口が密集する都市の課題</p> <p>1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源の産出と消費</p> <p>1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 3 砂漠化の進行</p>	<p>合によって生じている経済格差や移民問題などの諸問題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EU と日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。</p> <p>世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。</p> <p>都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。</p> <p>エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。</p> <p>地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。</p>
冬季休業				
三学期	1月	<p>4章 生活圏の諸課題</p> <p>1節 自然環境と防災</p>	<p>1 日本の地形・気候と生活 2 風水害と防災 3 火山の噴火と防災 4 地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え</p>	<p>日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。</p>
	2月	2節 持続可能な地域づくり	<p>1 地域調査の実施手順と方法 2 地域調査①軽井沢の課題 3 地域調査②軽井沢の観光客と地元住民への聞き取り 4 地域調査③軽井沢の持続的な発展に向けて</p>	<p>生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力や抱えている課題を見いだし、調査を踏まえてその解決策を考察する。</p>
	3月			
春季休業				

教科	地理歴史	科目	世界史 A	履修学年	3年
単位数	2	科・系	全科	担当者	

教科・科目 の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書 ・教材等	世界史 A（東京書籍） 独自プリント 歴史地図 独自資料（写真・図・グラフ等）
評価の観点 と その方法	評価の観点 世界史に対する意欲・関心・態度 歴史事象に対する思考力・判断力 世界史における資料活用の技能・表現 世界史に関する基本的な知識・理解 評価の方法 出席状況 提出物（プリント等） 定期考査（年5回） 以上を参考に総合的に行う。
学習方法・ 学習形態	歴史の大きな流れと、その背景を把握できるようにする。 歴史の流れや内容を理解し、視聴覚教材や歴史地図・資料（写真・図・グラフ等）・教科書の資料を活用して考察する。
留意点 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・内容全般にわたって基本的事項・事柄を精選して指導内容を構成し、細かな事象や高度な事項・事柄には深入りしない。 ・政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近・現代の世界に対する多角的で柔軟な見方を養う。

令和5年度学習進度予定表

期	月	学習項目	学習内容	到達目標
一学期	4月	学習のはじめに		世界史を学ぶ意義と理由について考える。
	5月	第1部近・現代世界史の背景 序章 第1章 ユーラシアの諸地域世界	古代文明の成立 1 東アジア世界 2 東南アジア世界 3 南アジア世界 4 西アジア世界 5 ヨーロッパ世界 6 南北アメリカ、アフリカ 7 ユーラシア交流圏	風土、民族、宗教などに着目しながら、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質を把握する。また、諸地域相互の交流に触れ、世界の一体化につながる交流圏の成立に気付く。
		6月	第2部 成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ 第2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	1 中華帝国の繁栄と東アジア 2 15～17世紀の東南アジア 3 西アジアと南アジア 4 16世紀のヨーロッパ
	7月			
夏季休業				
二学期	8月 9月	第3章 大西洋世界の変容とその波及	5 主権国家体制と世界商業 1 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2 産業革命と世界市場の拡大 3 ヨーロッパの動乱の波及	産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展と、それが世界に与えた影響について理解する。また、欧米における工業化と国民国家形成のプロセスを理解する。
	10月	第4章 産業化社会の拡大と成熟	1 ウィーン体制とその崩壊 2 国民国家への道	
		第5章 アジア諸国の変貌と日本	1 東アジアの変容 2 東南アジアの変容 3 南アジアの変容 4 西アジア・アフリカの変容	19世紀、資本主義を発展させた欧米各国の世界進出が、アジア・アフリカの諸地域に与えた影響について理解する。
	11月	第3部 現代の世界と日本 第6章 帝国と民族の時代	1 急変する人類社会の対立 2 植民地の拡大と深まる国家の対立 3 アジア・アフリカの抵抗運動	ドイツ・アメリカの台頭が欧米各国の勢力関係を多極化させ、植民地獲得競争を激化させたこと、そのような中でアジア・アフリカ諸国が国内の対立や欧米の圧力を受けながらも国民国家建設の動きが高まったことについて理解する。また、国民国家を形成した日本が国内の近代化を進めながら、植民地帝国への道をどのように進んでいったかについて理解する。
	12月	第7章 二つの世界大戦の時代	1 第一次世界大戦 2 戦後秩序の形成 3 世界恐慌とファシズム 4 第二次世界大戦	二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響について理解する。
		第8章 冷戦と民族独立の時代	1 戦後世界の形成 2 アジア・アフリカの民族	大戦後の世界の動きや冷戦後の世界が抱える問題につ

			運動	いて理解する。
冬季休業				
二 学 期	1月	第9章 グローバル化の なかの危機 終章 21世紀に生きる	3 冷戦体制の動揺 4 冷戦の終結	グローバル化の進展の中で 地球規模で一体化した現代世 界の特質と展開過程を理解し、 今日の人類の課題について考察 する。その際、世界の 動向と日本との関わりに着目す る。
	2月		1 グローバル化とアメリカ 合衆国 2 地域統合の模索 3 動揺する中東と世界の 地域紛争 4 アジアの変容と多様化 現代の諸問題・新しい動き	
	3月			
春季休業				